福岡県立 輝翔館中等教育学校

作詞 黒木 瞳
作曲 ビリー山口

分科会Ｈ

平成２９年度
福岡県立学校
「新たな学びプロジェクト」

本校の取り組み

－協同学習－

福岡県立 輝翔館中等教育学校

研究主任　鹿田　智弘
教　　諭　清藤　弥希

実践発表 分科会（７０分）の流れ　－輝翔館中等教育学校－

1 輝翔館案内（5分）
- 本校紹介

2 研究発表（15分）
- 研究テーマ設定理由
- 活動内容・実施状況
- 協同学習とは（演習）

3 評価について（40分）
- 評価の実際
- 評価法の一部を体験（演習）
- 質疑応答

4 まとめ・質疑応答（10分）
- 本校の現状（アンケート結果）
- これからの課題
- 質疑応答

1 福岡県立　輝翔館中等教育学校とは？

・前身は福岡県立黒木高等学校
・福岡県で唯一の県立中等教育学校（H.16～）

１学年１２０名（３クラス）
そのまま６年間
前期課程（中学）１～３年
後期課程（高校）４～６年

先輩、デカいっすね！

1 福岡県立　輝翔館中等教育学校とは？

校訓「進取創造」

自分から進んで、意欲的に新しいことに取り組み、
自分の考えで新しいものを作り出す。

めざす人間像
２１世紀でＡＣＥ（エース）となる人間

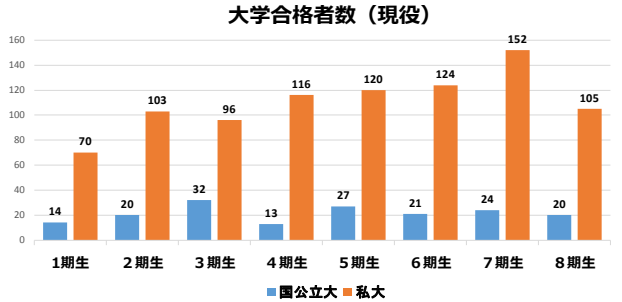
Ambitious　　：大きな夢をめざす生徒

Characteristic：自分らしさが輝く生徒

Expressive　　：自分を世界に発信できる生徒

1 福岡県立　輝翔館中等教育学校とは？

・進路



毎年８割大学進学、１割短大・専門学校、１割就職・公務員

1 福岡県立　輝翔館中等教育学校とは？

進路別状況（国公立大学現役）

１期生　１４名	九州大（1）熊本大（1）長崎大（3）宮崎大（1） 九工大（1）山口大（1）佐賀大（2）北九大（4）
２期生　２０名	九州大（1）千葉大（1）熊本大（4）長崎大（3） 佐賀大（2）大分大（1）鹿児島大（2）琉球大（1） 九工大（1）山口大（1）和歌山大（1）北九大（1）
３期生　３３名	九州大（3）名古屋大（2）北海道大（1）千葉大（1） 熊本大（4）長崎大（2）佐賀大（2）大分大（4） 鹿児島大（2）琉球大（1）北九大（4）長崎県立大（2）　他
４期生　１３名	九州大（1）熊本大（1）宮崎大（1）福教大（1） 佐賀大（2）京都教育大（1）信州大（1）島根大（1） 琉球大（1） 北九大（1）福岡女子大（1）沖縄県立看護大（1）
５期生　２７名	大阪大（1）北海道大（1）福教大（2）長崎大（1） 佐賀大（3）鹿児島大（3）山口大（2）和歌山大（1） 鳥取大（1）島根大（1） 神戸外大（1）北九大（3）福岡女子（1）　他
６期生　２１名	九州大学（2）山口大学（2）九州工業大学（2）福岡教育大学（2） 佐賀大（4）長崎大（2）琉球大（1）北九大（2） 福岡県立大学（1）長崎県立大学（3）
７期生　２４名	東京大学（1）東京工業大学（1）茨城大学（1）滋賀大学（1）山口大学（1） 九州工業大学（1）佐賀大学（2）熊本大学（4）大分大学（1）宮崎大学（1） 鹿屋体育大学（2）下関市立大学（1）北九州市立大学（3）熊本県立大学（1） 長崎県立大学（3）
８期生　２０名	東京外国語大学（1）九州大学（2）島根大学（1）広島大学（1）愛媛大学（1） 福岡教育大学（2）佐賀大学（5）熊本大学（1）大分大学（2）宮崎大学（1） 下関市立大学（1）北九州市立大学（1）長崎県立大学（1）

実践発表 分科会（７０分）の流れ　-輝翔館中等教育学校-

1 輝翔館案内（5分）
- 本校紹介

2 研究発表（15分）
- 研究テーマ設定理由
- 活動内容・実施状況
- 協同学習とは（演習）

3 評価について（40分）
- 評価の実際
- 評価法の一部を体験（演習）
- 質疑応答

4 まとめ・質疑応答（10分）
- 本校の現状（アンケート結果）
- これからの課題
- 質疑応答

２ 研究テーマ

「ＩＣＴを利用して生徒の知識の活用力を高めるアクティブラーニング」

①**「福岡県ＩＣＴ活用教育研究事業」**の研究指定校（**H.25～27**）
全教室に**電子黒板**、**タブレット１２０台**設置
→ この３年で教員にも生徒にもＩＣＴが定着
効率的・効果的な授業により学力の引き上げ

↓

バラバラな指導方法よりＡＬを前提とした授業で
生徒のより積極的な参加・活動を促す

２ 研究テーマ

「ＩＣＴを利用して生徒の知識の活用力を高めるアクティブラーニング」

②平成３３年度からの新しい大学入試制度に向けて
→「知識の活用力（**思考力・判断力・表現力**）」をどう身につけさせるか

↓

対象生徒（現中学３年）が在校生にいる

↓

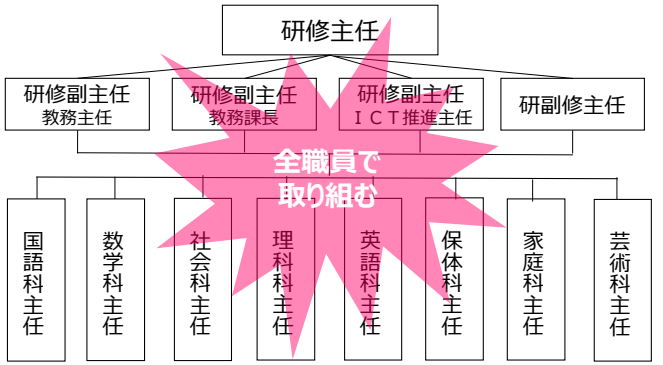
中等教育学校として６年間継続的に指導可能

早急に学校として対策検討・方針出し
ＩＣＴ ＋ アクティブラーニング（本校独自で）

２ ＡＬ研修取り組み状況 （昨年度～今年度）

- 校内研究組織立ち上げ
- 久留米大学　安永 悟先生との協議
- 安永先生「授業づくり研究会」出席
- 職員研修（安永先生・本校教頭）
  - ・協同学習の基本的な考え方と技法
  - ・AL班別協議
  - ・ＬＴＤ（話し合い学習法）の技法
- 研究授業（校内・公開）・ 研究協議（春・秋）
- 安永先生推薦書籍購入・ 貸出し
- 他校授業視察（他の研究指定校）
- 予備校職員研修プログラム参加（夏休み：河合塾・駿台）など

２ 本校の研修組織図



2 研修内容（協同学習）

協同学習とは？

学生たちがともに課題に取り組むことにより、**自分の学び**と**仲間の学び**を**最大限に高め**ようとする**小グループ**を活用した指導法

（ジョンソン・ジョンソン・ホルベック,2010）

↓

「学び合い・高め合い・認め合い・励まし合う」学習活動（協同の精神）

（「協同学習入門」杉江修治）

↕

「単なるグループ学習」とは区別

（「アクティブラーニングの技法・授業デザイン」安永・関田・水野 編）

2 研修内容（協同学習）

協同学習のために？
（話し合いの基本スキル）

傾　聴

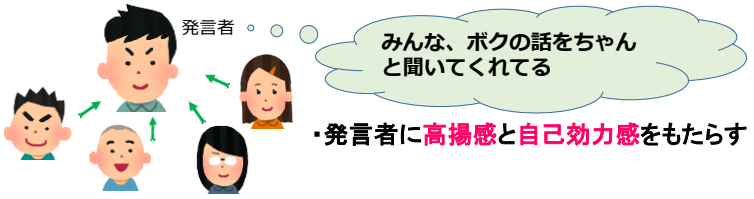
ミラーリング

2 研修内容（協同学習）

協同学習のために
（話し合いの基本スキル）

傾　聴

・発言者に体を向け、一言も聞きもらさないという態度で目を見ながら集中して聞く



・発言者に**高揚感**と**自己効力感**をもたらす

・聞く側も**理解の促進**と**深化**

「LTD話し合い学習法」（ナカニシヤ出版　安永 悟・須藤　文）より

2 研修内容（協同学習）

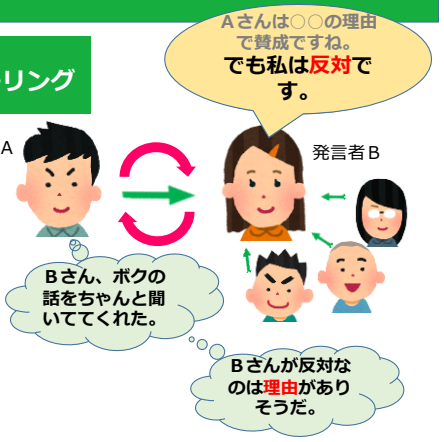
協同学習のために
（話し合いの基本スキル）

ミラーリング

・Aの発言を受け、Bはすぐに自分の意見を述べず、**Aの内容を復唱**

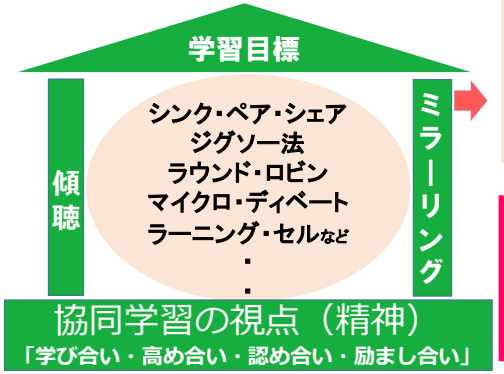
↓

・Aは**自分の発言内容をモニター**できる。
→誤解に基づくBの発言を未然に防ぐ



「LTD話し合い学習法」（ナカニシヤ出版　安永 悟・須藤　文）より

2 研修内容（協同学習）



自ら協同の精神を発揮し、仲間と協力・協調し、活動性の高い学び合い

基本的信頼感の深まり

本当の意味で自立した**主体的な学習者**を育成

（「アクティブラーニングの技法・授業デザイン」安永・関田・水野 編）

2 （協同学習の演習）

仲間づくり（ペア）

・話し手：自己紹介（1分）
　(1) 氏名と所属
　(2) 所属校の様子（ＡＬの取り組み状況など）
　※聞き手は口を挟まない

・聞き手：確認（1分）
　(1) 相手の名前を含め、自己紹介を復唱する
　(2) 相手の自己紹介を復唱する
　※話し手は間違いを訂正

時間が来たら
話し手・
聞き手交代

「活動性を高める授業づくり」協同学習のすすめ　安永　悟　医学書院

オンとオフの明確化

①教師が**「右手をあげ」**静かに**「やめ」**の指示

②気づいた生徒から**「口を閉じ」「右手をあげ」**
まだ気づいていない人に**「知らせ」「教師に注目する」**

→ 私語１つない静かな学びの場を作り出すことができる。

「活動性を高める授業づくり」協同学習のすすめ　安永　悟　医学書院

2 （協同学習の演習）

仲間づくり（ペア）

・話し手：自己紹介（1分）
　(1) 氏名と所属
　(2) 所属校の様子（ＡＬの取り組み状況など）
　※聞き手は口を挟まない

・聞き手：確認（1分）
　(1) 相手の名前を含め、自己紹介を復唱する
　(2) 相手の自己紹介を復唱する
　※話し手は間違いを訂正

時間が来たら
話し手・
聞き手交代

「活動性を高める授業づくり」協同学習のすすめ　安永　悟　医学書院

2 （協同学習の演習）

※目的：「傾聴」と「ミラーリング」を理解する　課題明示

■個人　１分
①自分のことばで「傾聴」「ミラーリング」を表現する
個人思考

■集団　４分　グループ
①簡単な自己紹介
②互いの理解を紹介する
③話し合って理解を深める
集団思考

■全体対話

「活動性を高める授業づくり」協同学習のすすめ　安永　悟　医学書院

実践発表 分科会（70分）の流れ

-輝翔館中等教育学校-

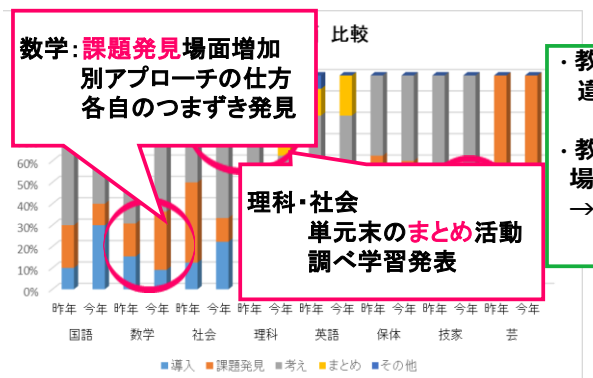
1 輝翔館案内（5分）
- 本校紹介

2 研究発表（15分）
- 研究テーマ設定理由
- 活動内容･実施状況
- 協同学習とは（演習）

3 評価について（40分）
- 評価の実際
- 評価法の一部を体験（演習）
- 質疑応答

4 まとめ・質疑応答（10分）
- 本校の現状（アンケート結果）
- これからの課題
- 質疑応答

4 本校の現状-アンケート結果より-

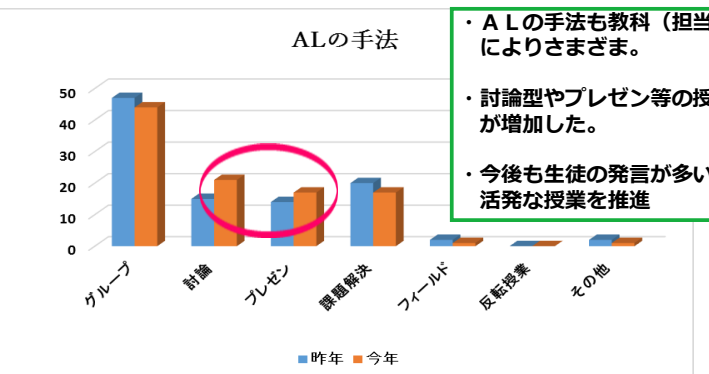


数学：課題発見場面増加
別アプローチの仕方
各自のつまずき発見

理科・社会
単元末のまとめ活動
調べ学習発表

- 教科により活用場面に違い。
- 教科内で昨年度と活用場面での変化。
  → 教科の特性に沿ったやり方

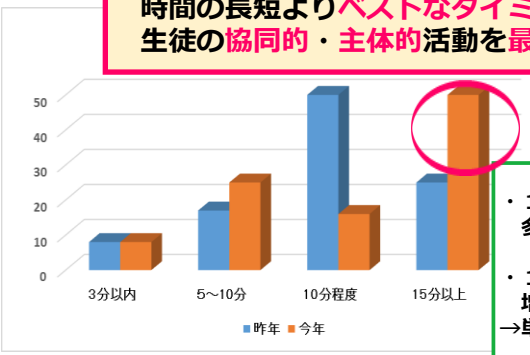
4 本校の現状-アンケート結果より-



- ＡＬの手法も教科（担当）によりさまざま。
- 討論型やプレゼン等の授業が増加した。
- 今後も生徒の発言が多い活発な授業を推進

4 本校の現状－アンケート結果より－

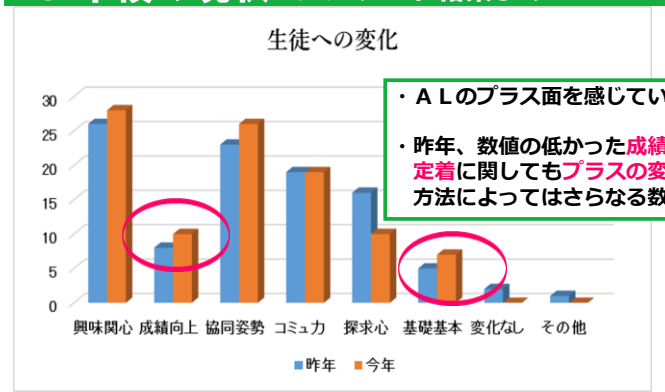
時間の長短よりベストなタイミング
生徒の協同的・主体的活動を最優先



・１０分程度で実施する場合が多い。

・１５分以上費やしている授業が増えたことが大きな特徴。
→単元のまとめ・討論・プレゼン

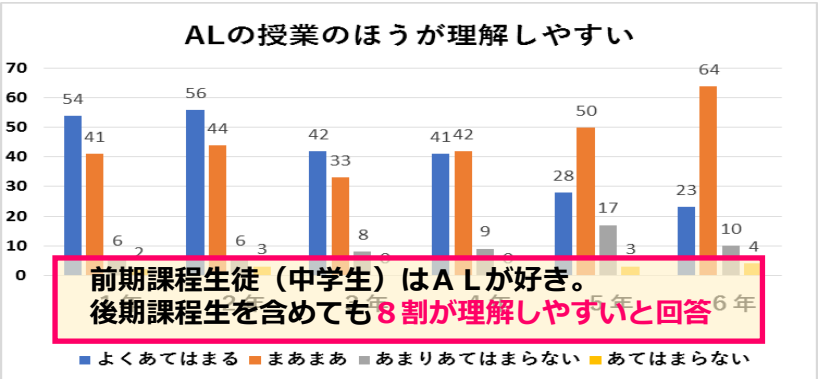
4 本校の現状－アンケート結果より－



・ＡＬのプラス面を感じている教員が多い。

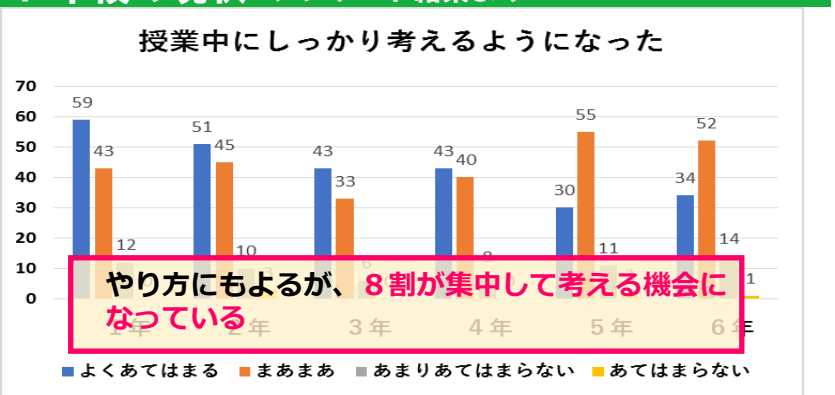
・昨年、数値の低かった成績向上や基礎基本の定着に関してもプラスの変化を感じている。方法によってはさらなる数値の伸びが期待。

4 本校の現状－アンケート結果より－



前期課程生徒（中学生）はＡＬが好き。
後期課程生を含めても８割が理解しやすいと回答

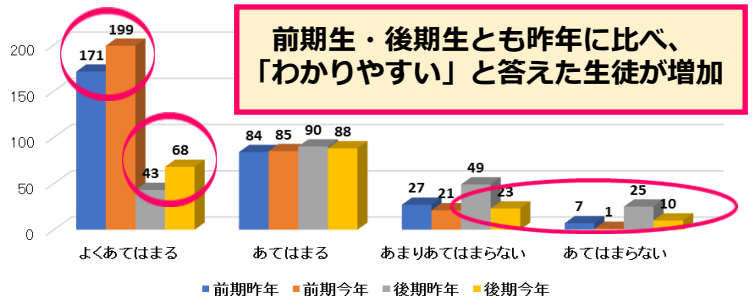
4 本校の現状－アンケート結果より－



やり方にもよるが、８割が集中して考える機会になっている

4 本校の現状－アンケート結果より－

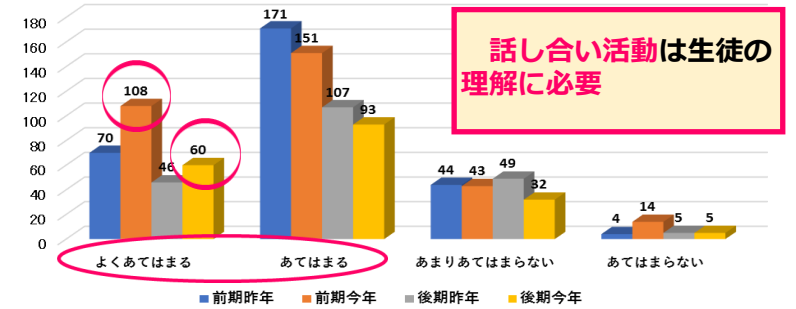
電子黒板やタブレットを使った授業は
わかりやすいですか



前期生・後期生とも昨年に比べ、「わかりやすい」と答えた生徒が増加

4 本校の現状－アンケート結果より－

話し合う活動を通じて、自分の考え深めたり、広げたり
することができると思うか



話し合い活動は生徒の理解に必要

輝翔館の現状

できていること	できていないこと
•計画的な研修実行 •職員全員の取り組み •ICT・ALの利用（活用）	•ＡＬの成果を目に見える形で •評価法への着手 •前期から後期への効果的継続

お問い合わせ先

輝翔館中等教育学校

〒８３０－１１１３
八女市黒木町桑原１０－２　ＴＥＬ0943-42-1917　鹿田

4 今後の研修・課題解決に向けて

今後の研修	・定期的な研修設定 ・教科さらに全体へ情報共有	・一歩ずつ踏み込んだ研修内容 ・外部研修会への積極的な参加 ・年間目標に沿った教科内研修 ・教科の成果を職員全体へ
課題解決	・ＡＬはまだ始まったばかり	・ＩＣＴ・ＡＬの計画的実施 ・自分の授業スタイルを確立 ・評価法の確立

４ 本校のＡＬ研修取り組み状況

昨年度まで・・

●校内研修を通して、アクティブラーニングを具体的に知る。
（協同学習）

●指導者の個人レベルで**全員がアクティブラーニングをやってみる**。
ごく初期の段階

ＩＣＴ研究指定校で
設備が整っていたのも後押し

４ 本校のＡＬ研修取り組み状況

今年度は・・・

●「協同学習」の精神に基づくＡＬの浸透
→それでも、実行する・しないの温度差はある・・

●評価に不安
手法は分かるが、実際なかなか実行できない現状

●今ある、シラバスやルーブリックを活用
できるところ（単元）からでも実践する

２ （協同学習の**演習**）

※目的：「傾聴」と「ミラーリング」を理解する

■個人　１分
①自分のことばで「傾聴」「ミラーリング」を表現する

■集団　４分　グループ
①簡単な自己紹介
②互いの理解を紹介する
③話し合って理解を深める

■全体対話（時間の関係で割愛）

「活動性を高める授業づくり」協同学習のすすめ　安永　悟　医学書院